

《中間発表 概要》

7月9日火曜日に、第1回SSH学校公開として、2学年による学術研究Ⅱ「中間発表」があった。ゼミに分かれて、班ごとに昨年度2月から始めた本格的な課題研究のこれまでの活動内容や、現時点での成果、これからの研究の展望などを述べた。また、大学生のTAや先生方、そして同級生との活発な質疑応答により、今までは気付かなかった課題を発見するなど、今後の研究に向けて有意義な時間を過ごすことができた。

《各ゼミにおける発表の様子》

物理ゼミ

全体としては全員が集中して発表を聞く様子が見えて素晴らしかった。一方、数班は原稿にばかり頼った発表をしていた。また、質疑応答では研究の意義や目的など、深掘りするような質問があつてよかった。

地学ゼミ

班によっては制限時間が足りないほど質疑が活発に行われた。中でも実験方法に関する質疑が多く、これを受け各班では新たな実験方法や、修正の必要性について議論が交わされた。担当教員からはグラフの有用性についての助言があつた。

化学ゼミ

全体として、発表資料中での数値の単位やグラフの誤りが散見された。また、質疑応答では多くの人が各班の研究に興味を持ったようで、多くの質問が飛び交っていた。各班はこれらをアドバイスとして次に活かそうとする姿勢が見られた。

数学ゼミ

スライドを用いた発表を行った。個々が積極的に質疑応答に取り組んでいて、中には研究者が気づかないようなものもあつたため、非常に有意義であつた。

生物ゼミ

スライドを用いて、緊張感の漂う雰囲気の中で発表が行われた。発表全体を通して、生徒がもっと質問をすること、自分たちの発表を相手に伝える姿勢を示すことなどのアドバイスを先生方や外部講師の方から受けた。これらを今後の学術研究に活かしていきたい。

情報ゼミ

三班合同の発表で、ほかの分野の研究内容を知る機会を得て皆興味を持って発表を聞き積極的に質疑応答をするなど有意義な時間となった。

国語ゼミ

生徒からの質問が活発であり、質問内容も発表の内容をしっかりと理解したものであつた。また、発表者は比較的簡単な質問にも真摯に対応しており、とても良い雰囲気の発表会であつた。



質疑応答の様子

地歴ゼミ

このゼミではアニメ聖地巡礼により観光事業を活性化することを研究している班の発表で、鋭い質問があり、結果が断定できなくなったが、その班にとって根本的に重要であることを確認できた良い機会になった。



発表の様子

公民ゼミ

どの班も研究の方向性が定まってきたと感じた。調べ学習にとどまることなく、考察や展望では新たなものを生み出そうとする意識が見られた。多様な角度からの鋭いアドバイスを受けてゼミ全員にとって良い刺激となった。



質疑応答の様子

英語ゼミ

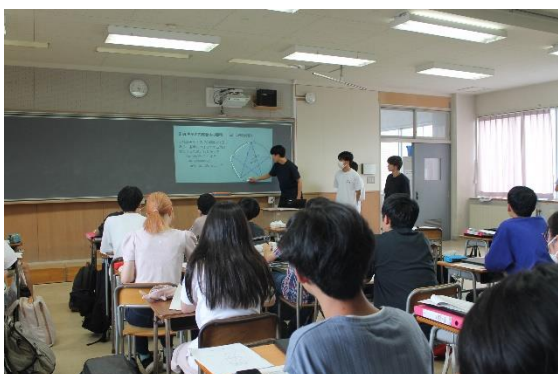
英語での発表は聞く側にも考慮してゆっくり、はっきり、大きな声で話すことを意識するよう指摘があった。また、客観的なデータを得るためにアンケートを行うのが有効ではないかなどのアドバイスもあった。

保体ゼミ

質疑応答に時間がかかっていた班もあり、事前に質問内容を予想しておく必要があると思った。条件を変えたり母数を増やしたりなど今後の研究をよりわかりやすいものにしたい。

音楽ゼミ

質疑応答の際には、実験の条件の適切さなど、研究方法に関する質問が多く、先生からは、音楽の研究では感覚を数値化するため多くのサンプルが必要であることをご指摘いただいた。



発表の様子

家庭ゼミ

原稿を覚えていない班が多く、今後の発表では原稿を覚えるようにしたい。研究目的やゴールを見失わないように、収集したデータを取捨選択していきたい。

災害研究ゼミ

文系分野理系分野それぞれの特徴をいかしたとてもユニークな発表が見られた。テーマ発表のときと比較して質疑応答が活発に行われた。

編集後記

どのゼミも、現在の進捗状況をしっかりと伝えることができたようであった。また、質疑応答によって、研究を行っている自分たちでは思いついていなかったような新たな視点からの考えを受け取れたように思う。全ての班、自分達の研究や発表に対する課題が明らかになったと思うため、改善をしつつ、研究を進めていってほしい。